独立行政法人国立高等専門学校機構 鳥羽商船高等専門学校
教員(情報機械システム工学科)公募要項

1. 公募人員 教授、准教授、講師、助教のうちいずれかから2名
(採用職位は、採用予定者の経験・業績等を考慮して決定する)
2. 所 属 情報機械システム工学科
3. 専門分野 研究分野一覧の大分類のうち「工学系科学」「情報学」「農学・環境学」に関する分野
https://www.mext.go.jp/content/20210428-mxt_kiban03-000014436_11.pdf
4. 担当科目 情報系基礎科目、プログラミング、ネットワークシステム及び関連分野、
電気電子系基礎科目、電気電子回路設計、組込みシステム及び関連分野、
工学系基礎科目、工学リテラシー、データ解析及び関連分野、
並びに実験・実習・卒業研究等
5. 応募資格 次の(1)～(4)いずれにも該当する方
(1)次のいずれかを満たしていること
①博士の学位を有する方
②着任後、3年以内に博士の学位を取得見込みの方
博士の学位を有していない場合は、採用から3年間の任期付き助教として採用し、
任期中に博士の学位を取得したときは任期の定めのない教員とする
任期中に博士の学位を取得できない場合は、任期満了時に退職となる
(2)「4. 担当科目」のいずれかを教授できる方
(3) 高等専門学校における教育、研究に強い熱意があり、担任業務、学生指導、寮生
指導(宿直業務を含む)、クラブ顧問等の課外活動に積極的に取り組める方
(4) 産学連携・地域連携等の社会実装活動に意欲的に取り組める方
(例: 農業・水産業支援システムの構築に関する研究推進など)
6. 採用予定時期 令和8年4月1日以降できるだけ早い時期
7. 勤務形態 常勤(任期なし)
ただし、応募資格(5(1)②)により助教として採用する場合は任期付きとする
8. 提出書類 次の(1)～(6)については必ず提出すること
(1) 履歴書(氏名は本人自筆、写真貼付)(第1号様式)
(2) 教育研究業績書(第2号様式)
(3) 主要な著書、論文等の別刷り又はコピー(3編程度)
(4) 教育活動・研究活動・学会及び社会的活動について(第3号様式)
(5) 高専における教育(教育・学生指導)と研究に関する見解と抱負(第4号様式、
2000字程度)
(6) 推薦書1通(様式自由)ただし、推薦書の用意ができない事情のある場合は、客観的
参考意見を伺える方1名の氏名、役職及び連絡先(住所・電話番号・E-mailアドレス)
※ 所定様式は、本校 HP(URL <https://www.toba-cmt.ac.jp/saiyou/>)又は科学
技術振興事業団研究者人材データベース(<http://jrecin.jst.go.jp/>)の本公募要
領のページからダウンロードすること
9. 応募期限 令和7年8月29日(金)必着

10. 選考方法 (1) 一次選考 書類審査(9月上旬予定)
(2) 二次選考 面接及び模擬授業(9月中旬～下旬予定)
※一次選考合格者に対し、実施日時等の詳細を通知する
11. 提出先 〒517-8501 三重県鳥羽市池上町 1-1
鳥羽商船高等専門学校 総務課 人事労務係
(提出書類は「簡易書留」とし、封筒に
「情報機械システム工学科教員応募書類(※専門分野)」と朱書きすること)
12. 問合せ先 情報機械システム工学科 学科長 白石和章
E-mail siraisi@toba-cmt.ac.jp
TEL 0599-25-8403(ダイヤルイン)
13. その他 (1) 二次選考に係る旅費・宿泊費等は応募者の負担とする
(2) 応募書類は原則返却しない、返却希望の場合は返信用封筒を同封すること
(3) 応募書類により取得する個人情報、本校の教員を採用するための目的に利用するものであり、この目的以外で利用又は提供しない
(4) 鳥羽商船高等専門学校では、男女共同参画を推進している
本公募では、業績(教育・研究業績、社会貢献、人物を含む)の評価が同等の場合は、女性応募者を優先的に採用する

鳥羽商船高専の教員が携わる校務内容の概略

高等専門学校は、教育目標及び学生の年齢層(本科:15～20歳、専攻科:20～22歳)が幅広いことなどから、大学や高等学校とは本質的に異なる特徴を有する。高専の教員には、教育・研究及び学生生活指導等の全てに対し、情熱をもって積極的に取り組む姿勢が求められる。以下に、鳥羽商船高等専門学校教員の校務の概要を示し、理解を一層深めるための資料とする。

(1) 授業

教員の担当授業時数は、本科における講義が週約6～8時間、実験実習や卒業研究などが週約12～14時間である。さらに、専攻科の講義がこれに加わる場合がある。定期試験は年4回実施し、前期末と学年末に学生に対する補習・再試験等を行う。また、教員相互に行う授業観察や年度末などに行う学生による授業評価などを通して、教育方法の改善に継続的に取り組むことが求められている。

(2) 研究

高専の教員は、教育面や学校運営への参画のみならず、研究成果も求められる。研究に対する意欲的な姿勢と成果が学校全体の教育研究面の活性化を促し、さらには地域社会への貢献につながることを期待されている。また、科学研究費補助金に関しては、全教員に申請を奨励している。

(3) 学級担任

学級担任は、一学級40人程度の学生への勉学や生活指導など、学生生活全般にわたるきめ細かな指導が強く求められる。例えば、高等学校と同様に、学校祭である海学祭や体育祭など各種行事での指導、学生への個人面接や保護者との懇談、1～3年次はホームルームなども重要な職務である。また、見学旅行の引率指導、キャリア教育を行っている。

(4) 各種委員会・会議

本校には、教務委員会・学生委員会・寮務委員会等、各種委員会が設置されている。学級担任を兼務する場合や、複数の委員会に所属する場合もある。また、学科会議や教員会議等を定期的に行い、情報交換及び学校運営に関する意見の集約を行う重要な会議体として機能している。学生の教育及び生活指導は、教務主事室・学生主事室・寮務主事室を中心に全教員が協力して実施している。例えば、寮務主事室の教員は宿直に加え、学寮内の巡回、寮生の日常生活の指導、寮での各種行事の指導等を担当する。

(5) クラブ顧問

クラブ顧問は日常的な指導に加え、運動系クラブの場合、高専体育大会(地区大会・全国大会)の運営、高体連等の各種大会及び練習試合の引率、合宿時の指導等を担当する。

(6) 学寮の宿日直

本校では、原則として全教員に学寮の宿直及び日直(日直は土・日・祝日のみ)を割り当てている。担当頻度は月1～2回程度であるが、女子寮も設置しており、女性教員による日直も実施している。約200名の男女寮生を指導するこの職務は、本校教員に課せられた重要な学生対応業務の一つである。

(7) 社会貢献

本校では、共同研究、受託研究、公開講座、出前講座など様々な形で地域連携活動を推進している。地域社会からも様々な形で本校に対する要望が寄せられる。地域連携活動が学生教育へ及ぼす効果に加え、地域に根ざした高専としての存在価値を高めるためにも、高専教員には積極的に地域社会に対して貢献する姿勢が求められる。